資料6

ウェルビーイングについて

京都大学　人と社会の未来研究院
内田 由紀子

ウェルビーイングとは何か

新しい「ものさし」・コンセプト

▶ **経済だけではなく**

こころの充足、生活への評価・感情・価値、健康まで

幸せとウェルビーイングの違い

Happiness = 短期的・個人的な感情状態

Well-being = 個人＋**個人をとりまく「場」が持続的に**よい状態であること

包括的コンセプト

自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む地域・学校が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること

ウェルビーイングの深化

今が楽しい

（個人・現在）

これからの将来に希望を持てる

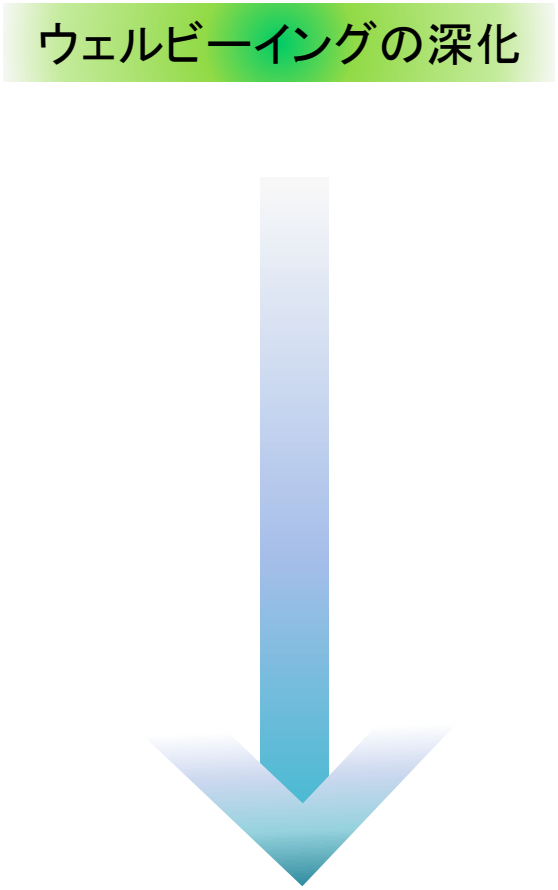
（個人・将来展望）

クラスや地域の人の幸せを願う

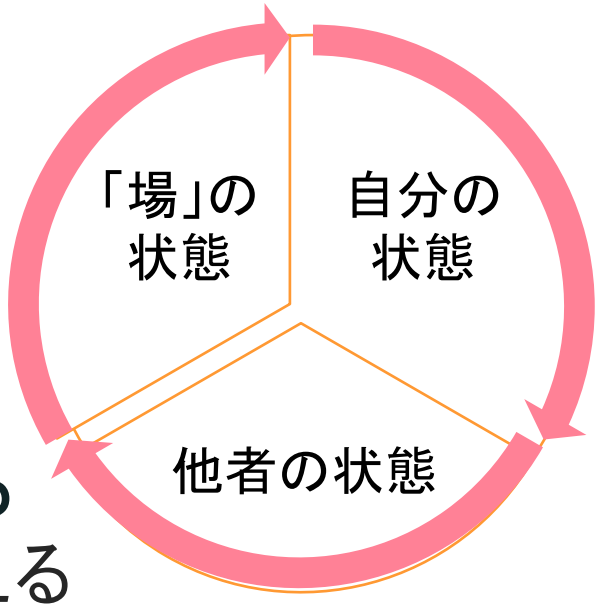
（社会・共生）

この町・学校・世界を良くしていきたい

（利他性・公共・持続）



ウェルビーイングを考える際の注意点



快楽と生きがいの違い

意味は国や地域の文化など社会環境により異なる

- それぞれの「ウェルビーイング」のあり方を考える
- 世界ランキングではなく、状況を知ることを重視することが大切

多様なウェルビーイングの求め方を認めるような場づくりが大事

世界は個のウェルビーイングから
場のウェルビーイングを考える時代へと変化しつつある

(e.g. World Happiness Report 2022 “Balance and Harmony”)

個のウェルビーイング

Self-training
- 性格
- 持ち物
- 経歴
- 身体状態
- 目標
- 志向性
- スキル　etc…

個別的測定とフィードバック
【科学技術先行】

Question

各人の状態が本当によくなれば社会全体は共創的になるのか？

多くの人々の状態がコンフリクトしないことは可能なのか？

社会的ジレンマは解決できるか？

第４期教育振興基本計画

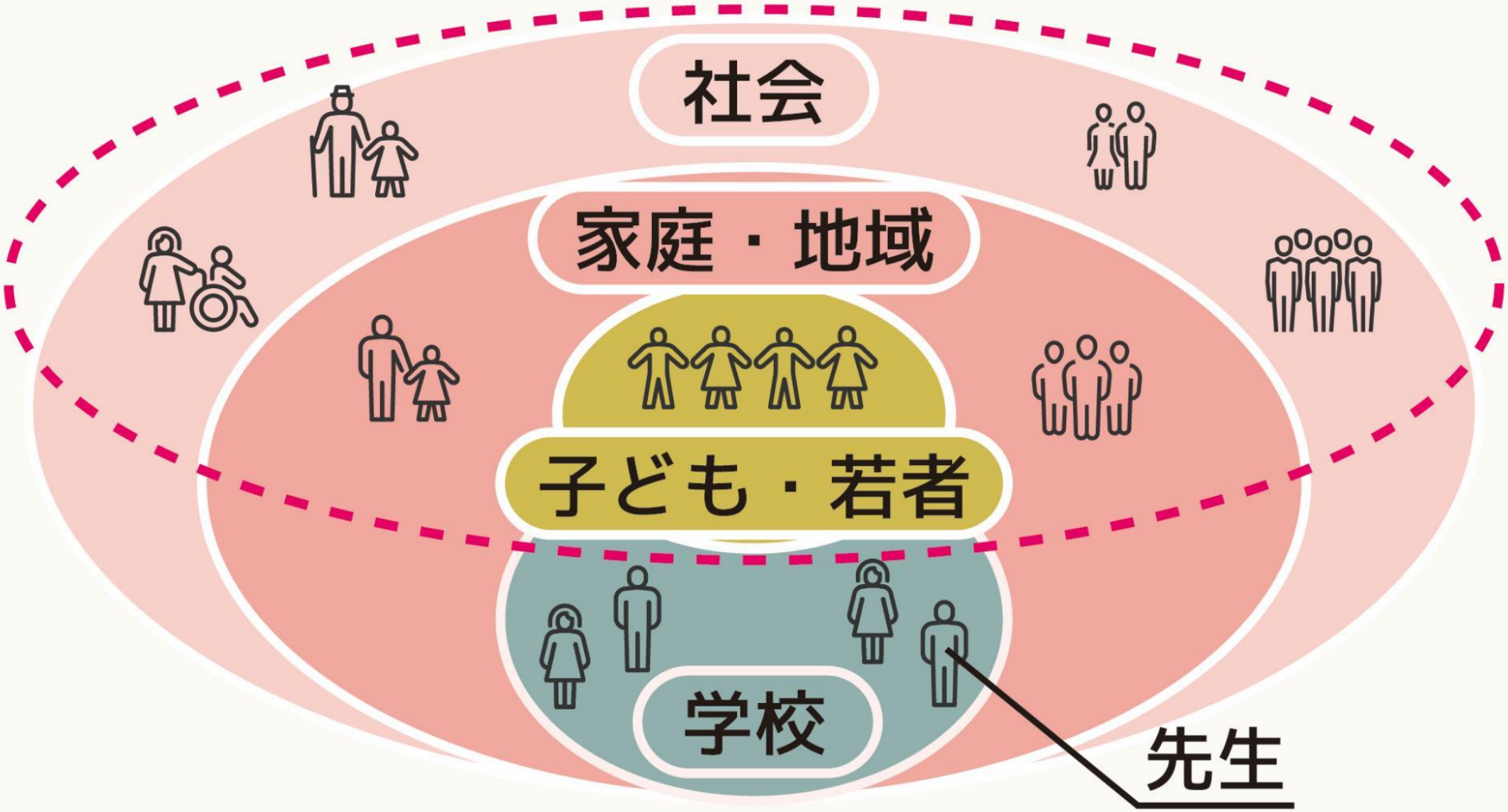
日本社会に根差したウェルビーイングの向上

多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じる
とともに、地域や社会が幸せや豊かさを
感じられるものとなるよう、
教育を通じてウェルビーイングを向上

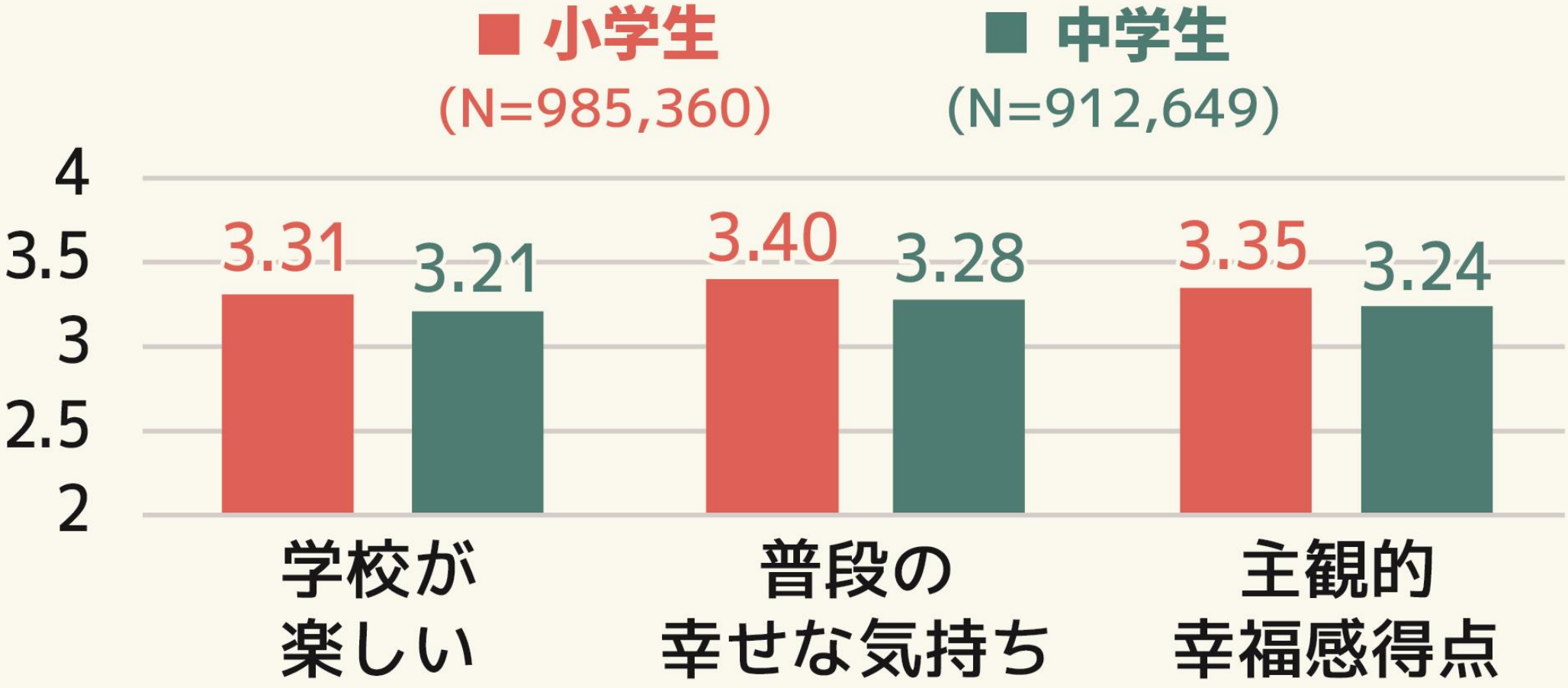
獲得的
要素

協調的
要素

両者を調和ある形で一体的に


社会
家庭・地域
子ども・若者
学校
先生

令和５年度 全国学力・学習状況調査



令和5年度全国学力・学習状況調査　ウェルビーイングに関する分析報告書【概要】

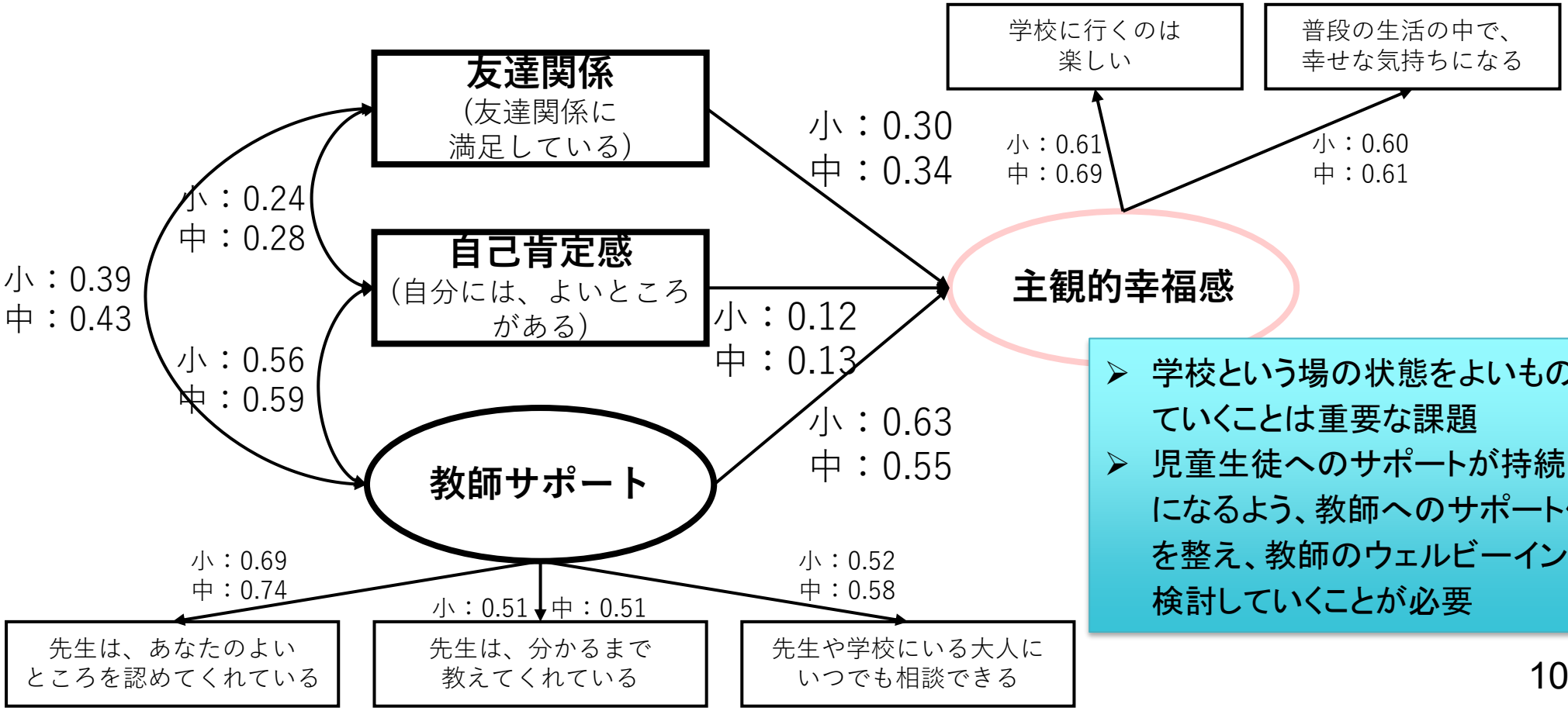
ー　学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて　ー

【結果のポイント2】

●学校という場所においては、友達との関係、教師との関係など、他者とのつながりが児童生徒の主観的幸福感にとって重要。

共分散構造分析(※1)の結果

(※1)共分散構造分析とは、互いに関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析のこと。
小は小学生、中は中学生を表す。
片方矢印は標準化係数であり、絶対値が大きいほど被説明変数(矢印の先の項目)への影響力の大きさを示す。
両矢印は相関係数であり、二つの変量の関係を表す係数。
値が1に近いほど、強い相関関係を表す。すべて0.1%水準で有意。



- 学校という場の状態をよいものにしていくことは重要な課題
- 児童生徒へのサポートが持続可能になるよう、教師へのサポート体制を整え、教師のウェルビーイングを検討していくことが必要

まとめ

- Well-being社会の実現のためには
  - 多様性、開放性など、個人を尊重しつつ
  - 他者や社会のための行動を考える
  - 日本的な協調性の良さを活かしつつ、より寛容な社会であること

- 場に期待されること
  - 「場のウェルビーイング」に向かっての、共有意識・信頼関係の醸成
  - 開かれた学校づくりを支え、「つなぐ」役割の重要性
  - ウェルビーイングな学校づくりに参画することによるウェルビーイングの循環モデルの生成